

立憲民主党
The Constitutional
Democratic Party of Japan

号外

令和4年 3月 発行
地域版（中川区）
立憲民主編集部
〒102-0093 東京都千代田区
平河町 2-12-4 ふじビル 3F
TEL 03-6811-2301

久野美穂

ネットワーク

通信

名古屋市議員

〒454-0835 名古屋市中川区八家町 3-46-2 TEL 052-364-8812 <https://kunomiho.com>
発行：久の美穂を支える会、名古屋民主市会議員団

防災教育に震災の教訓生かせ



昭和橋中学校で418名が参加した講演会

久野美穂の提案、
市が全面受け入れ

大地震から名古屋の子どもたちを守るためにどうすべきか。

名古屋市の東日本大震災被災地の岩手県・陸前高田市に、行政支援を続

けています。この間11年、派遣職員は延べ250人余。この活動は被災地の復興に貢献しただけでなく、支援を通して貴重な経験を名古屋市も得られたはずで、

蓄積された貴重な教訓や知識をもっと広く有効に使うには何をどうすべきなのか。

久野美穂は、大震災から10年が経った昨年（令和3年）3月市議会本会議で、派遣職員の経験や教訓を、子どもたちに直接語る機会を多く作るべきと具体的提案をしました。

従来の防災・避難訓練だけでなく、新たに被災地での体験談や生の声を通した、活きた防災教育を進めてほしいからです。名古屋市では、これま



東日本大震災直後の陸前高田市の惨状

で小中学校に派遣職員が出向き貴重な経験を語ったのは、この10年間でわずか10回でした。あまりにも少ない。久野美穂が議会ですべての提案をするまで、行政の対象は市民と職員であり、子どもたちに向いていませんでした。

名古屋市の久野美穂の提案を、全面的に受け入れられました。昨年6月から、市内の小中学校に派遣職員や防災危機管理局の職員らが講師として出向き講演事業を始めました。第1回の本郷小学校（名

東区）を皮切りに、この1月までに23回開催されています。昨年12月には中川区の昭和橋中学校でも行われ、418名が参加しました。

講演会では、防災に関する市職員がそれぞれの体験や教訓を、小中学校の子どもたちに直接語りかけます。そして、南海トラフ地震への備えを呼びかけます。

せっかく小中学校で防災教育の時間を設けているのだから、少なくとも年に1回は各学校で、現地に行った市職員の教訓や知識を語ったり、陸前高田市民の生の声を聞く時間を設けてほしい。防災教育のカリキュラムに取り込むべきではないか。この久野美穂の思いは行政に届きました。

名古屋市は現在、タブレット端末の配備を進めています。将来的には、被災地の教員や震災の語り部と教室を直接つなぎ、防災教育に役立てることを視野に入れています。



土木事務所と枯れ木置き場が、新たな広場に再生

物置と化した土木事務所と枯れ木置き場
＝令和元年6月撮影

中川区の一等地・松葉公園の一角に、フェンスに囲まれた中川土木事務所の旧分所と、剪定された山積みになった枯れ木置き場があります。市民は立ち入り禁止。一方で、市民は駐車場が足りなくて困っている。こんな無駄な場所があつていいのか。物置きと化した分所や枯れ木置き場を整理すれば、市民の望む駐車場はできるはずだ。

松葉公園に新たな広場完成へ

「旧分所と枯れ木置き場」無駄追求して3年

した。市は分所の解体と、枯れ木置き場を臨時駐車場にすることを約束しました。そして1年後の令和2年5月に、10～15台の車が利用できる臨時駐車場が完成。今年3月末には、使いやすい形に整備した駐車場と、遊具やベンチを設置した広場が完成する予定です。松葉公園内の無駄を追求して3年。無駄をなくし、ようやく市民の願う姿になります。皆さまの声を聞きし、自ら調査した現実を行政にぶつけ、対応を迫る。久野美穂の姿勢は今後も変わりません。

高齢者福祉目安箱 全16区に配置

利用者の不満や意見を直接行政に

超高齢化社会の日本。周りにもお年寄りが増えたなあと実感すると同時に、介護・福祉の大切さを改めて思います。

福祉施設や介護施設には、とんでもない施設がありま



中川区役所に設置された目安箱＝令和2年8月

が相次いでいると掲載され、氷山の一角とも書かれていました。久野美穂は令和2年6月市議会本会議で、名古屋市の対策は事業者ばかりに目が向いている。介護の現場で働く方や利用者の不満や意見を、広く聞くことはとても重要です。そのためには施設に遠慮しなくても済むよう、誰でも利用できる区役所に、思いや意見を投書できる目安箱のようなものを置くことはできないかと、市に提案しました。

市は久野美穂の提案を積極的に採り入れ、早速2か月後の8月に中川区役所に目安箱を設置しました。あれから2年、高齢者福祉目安箱は全16区に配置されています。

久野美穂が本会議質問を行ったきっかけは、ある方からの訴えでした。「うちの主人はもう少しで死ぬところだったのよ...」

ある老人施設に入ったら、食事も満足にとらしてくれない。着替えやオシメ替え、お風呂なども要求するまでしてくれない。娘さんは介護疲れで倒れてしまい、ご

主人も日に日に弱っていった。今は別の施設にいますが、本当によくしてくる。今の施設が100点なら、前の施設は0点以下です。「こんなひどい施設の現状をどこに訴えたらいいのか」と相談されました。

私は実家の親が入院した際、介護ヘルパーの資格を取りました。その実技研修での経験から、介護の現場は本当に大変だと実感しました。現場で働く人、福祉に貢献している人の努力を無駄にしたいけません。

現場で辛い体験をした多くの方々の思いや意見が、直に行政に届き、時間をおかず問題解決できる一助となれば幸いです

危険な生活道路 わき道舗装します

戸田地区 横断歩道設置に続く安全策

公共交通がとて貧弱で車頼みの中川区は、幅の狭い生活道路に多くの車が行き交います。区内のどこにでも見かける危険な生活道路が、戸田地区にもあります。

生活道路で歩行者がとて怖い思いをしていると、戸田地区の方から伺ったのは3年前の令和元年でした。私は朝昼晩、雨の日も歩いてみました。袖に触れる程の近さで、私の横を車が通りすぎます。しかも



危険を避け、生活道路わきの砂利道を歩く中学生たち

かなりのスピードです。とても怖い。

久野美穂は、令和元年6月市議会本会議でこの生活道路の危険性を訴え、対策を提案しました。

そのうちのひとつが、信号のある横断歩道の設置です。質問後も地元の方々と何度も話し合い、一緒に警察に陳情にも行きました。その結果、ようやく市は令和2年8月に、横断歩道を設けました。

地域の方々から感謝のメールをいただきました。70代男性は「通勤で春田駅まで行きます。朝夕交通量が激しくて、横断歩道が出

来てホント助かっていました。10代女性からは「通学路として使っています。車も横断歩道があると止まってくれます。安全に渡れるので嬉しいです」。メールを読み、市議のやりがいを実感しています。

そして令和4年度には、並行する戸田川沿いの細い砂利道の舗装に加え、そこにつながる防災広場も設置されることになります。

中川区は公共交通や道路などハード面で、他区と比べて非常に遅れています。戸田地区の危険な生活道路が、一日も早く安心安全な道路に変わるよう、今後も注目していきます。

軟式少年野球クラブ「ときわイーグルス」新メンバー募集中!

月謝

3,500円

お問い合わせ先

担当: 岩戸

TEL.052-351-6359

久の美穂を支える会 会員募集

入会のお申し込み・お問い合わせは右記へ

郵便: 〒454-0835 名古屋市中川区八家町 3-46-2
電話: 052-364-8812 ファックス: 052-354-0031
ホームページ: <https://kunomiho.com>

ホームページを
ご覧いただけます

